

# フェアトレード研究の現状と課題<sup>1</sup>

神戸国際大学経済学部

専任講師 大野敦

## 発表要約

フェアトレードは、貿易を通じた社会正義の実現をその核心におく。フェアトレードを評価するためには、社会正義の実現だけではなく政治的目標を含む目的、直接的・間接的貧困削減だけではなく社会開発をも含む効果、そして途上国の生産者とそのコミュニティだけではなく、バリューチェーン全体そして先進国の消費者までをも含む幅広い対象を考察する必要がある。また、その分析、評価、方法論としても、社会学、経営学、政治学、文化人類学、経済学からの先行研究が存在しているから、それらを統合・比較するときに困難さに遭遇する。これらからもわかるように、フェアトレードの評価を口にしたときに、どのような評価軸をおくかを巡ってさらなる論争が必要となる。

フェアトレードに関する研究は、学術的積み重ねがなされており、社会学、人類学、経営学などからはすでに多くの著作もなされている。サーベイ論文としては、社会学からはムーア (Moore [2004]) や経営学からはニコルスとオパール (Nicholls and Opal [2005]) やウィコウスキ (Witkowski [2005])、政治学からはフィッシャー (Fisher [2009]) など、各分野から代表的なサーベイ研究がなされている。本稿では、フェアトレード製品の販売量が拡大し、フェアトレードの社会的影響が高くなった 2000 年以降に行われた研究のサーベイを中心に行う。このように、サーベイ時期を限定する理由は、フェアトレードの販売の拡大に伴って、フェアトレードの分析手法が多様化したためである。

2000 年以降、Fairtrade Labelling Organizations International (FLO) の認証を利用したフェアトレード製品の販売が拡大する中で、フェアトレードの参加者が多様化した。その結果、これまで小規模取引が主流であったフェアトレードの形態も多様化し、複雑化した。フェアトレードのガバナンスを巡って、「フェアトレードは誰のものなのか？」ということが問われたしたのは、この時期以降である。この間の研究の方向性の整理することで、フェアトレードの拡大がフェアトレード研究に与えた影響を明らかにする。そのために、まず第 1 節ではフェアトレードの理論の展開を整理する。第 2 節で、フェアトレードが与えた生産者への効果を論じる。第 3 節では、フェアトレードへの批判を論じる。第 4 節では、新しい課題である倫理的消費者像とフェアトレードに政府が開発援助や倫理的調達でどのように関与しようとしているかについて分析を行う。

## 第一節

フェアトレードの理論的フレームワークの構築が依然として大きな課題となっている。フェアトレードは、そもそも社会運動として成立してきた背景から、多様なディス

---

<sup>1</sup> 本研究は、文部科学省科学研究費若手(B)「フェアトレードと開発援助政策の接点を求めて」(課題番号 21730242)の成果の一部である。

シプリンを持ったアクターが参加している。そのため、理論構築も、すでに見てきたように、社会学、経済学、経営学や政治学といった、様々な理論が用いられてきたが、どれもフェアトレードの多元性を説明するには十分ではない。何がフェアトレードの核心であるかを探し求めることは、フェアトレードが普遍的なモデルとなるためには、重要な問題である。

## 第二節

フェアトレードの成果を巡る調査に関しては、ケーススタディが積み重ねられてきていて、フェアトレードの成果を立証する論文も多い。だが、地域や産品によっては成果を立証できていないことや、フェアトレードに参加する農家と参加しない農家に対する成果の違いを、ランダムサンプリングを通して立証している研究は少なく、より普遍的な成果の実証を目指して、量的・質的研究の拡充が求められている。

## 第三節

市場と効率、そして生産者間からの公平性という観点から、フェアトレードに対する批判も数多いが、一方でそれらの批判自身も実証研究に裏付けられているものは少ない。フェアトレードの成果をより強固なものにするべく、こうした批判が実証されているかどうかを検討していくことも今後重要な課題であろう。

## 第四節

倫理的消費者は、多様な年齢層によって構成され、男性でもあり女性でもある。宗教や言語、文化が規定するとは必ずしも言えない。学歴を否定する研究は存在していないことから、学歴は一つの要素として有力候補ではあるものの、現在のところ、どの社会属性が倫理的消費者を決定するのかを結論づけることは困難である。

一方で、フェアトレードの政治化の成功は、フェアトレードを 21 世紀の欧州でもっとも成功した社会運動としての位置を与えた。アドボカシー活動の成功は、政治とフェアトレードの新しい関係を作り出している。

## まとめ

以上のように、欧米の研究を中心にフェアトレード研究は知的成果として大きく積み重ねられてきた。一方で、フェアトレードの研究は理論・実証ともに依然として大きな課題が残っている。これら分野の研究の進展は、フェアトレードが一時の流行なのかそれとも持続的な開発モデルであるかを分析する上で重要である。